

令和5年度 第1回 北海道社会福祉審議会
北海道地域福祉支援計画専門分科会 議事録概要

日 時 令和5年6月13日（火）14時～15時30分

場 所 北海道立道民活動センター（かでの2.7） 1040 会議室

出席者 橋本分科会長、岡田委員、中村委員、藤原委員、澤田委員、平本委員

事務局 板垣福祉局長、秋田地域福祉課長、坂田課長補佐、神原地域福祉推進係長、小橋主事

議 題 第2期北海道地域福祉支援計画の策定について

議 事

1 議題（第2期北海道地域福祉支援計画の策定について）

（1）事務局（坂田補佐・神原係長）から資料に基づき説明

（2）ご意見等（有・無）

澤田委員） 介護の業界では、国際化が進んでおり、地域住民の中にニューカマーとして外国人が加わってくる。多文化共生について明文化されていく必要がある。

岡田委員） ・地元社協の活力と市町村計画の策定率には相関関係があるように感じる。

・都道府県別の自治体数に対する重層事業に取り組む自治体数を割合で見ると、北海道はまだ課題は大きい。

・自治体が重層事業等を実施できない問題として、部署を超えた調整が困難であることがあるので、実施できている自治体のノウハウを共有してほしい。

・相談支援包括化推進員の配置ができる制度はあるが、実施されていないので、周知してほしい。

・高齢者への支援が注目されがちであるが、障がい・子ども・生活困窮といった広い層への配慮を反映できたら良い。

中村委員)・CSWの確保と資質向上について、具体的に示せたら良い。

- ・重層事業を実施する市町の計画策定率が100%であることは重要な要素であり、道内市町村における策定率の向上に向けて、今後具体的な取組ができれば良い。
- ・孤独・孤立対策は広い領域での問題であるので、取組を更に進める内容を織り込めたら良い。

藤原委員) 市町村計画の未策定理由を見ると、単独では策定できそうもない状況に思える。これを打破していくための道による具体的な施策が必要。

平本委員) 重層事業を検討するときに、自治体内の他課との調整に負担を感じるという話を聞いている。未実施市町村が「これだけだったらできる」と思えることを示す必要がある。

澤田委員)・地域福祉に関する取組の好事例の集約については、道のホームページにCCRCの様なチャンピオンケースだけでなく、もう少し小さい取組も集約した事例集を掲載できたらいい。

- ・また、アワードを実施するなど、アウトカムを明確にすることは縦割りを打破するのに重要。

橋本会長) 高齢者介護保険に関しては、今後地域差が広がり、厳しい状況に直面していくことが予想され、高齢者だけでなく大きな施策として、地域共生に取り組まなければならない。このような状況に向けて、地域福祉支援計画は大きな問題認識の提起となる。

(3) 事務局案について (承認)・否認

2 その他

今後、7月下旬、10月下旬、1月中旬の開催を予定。

以上